

期短縮が狙い。都内を中心に即日配送が可能となり、緊急手術にも備える。これまでの配送は全て本社から行っており、岡山県外の物流拠点は初めて。
(内田光祐)

医療機器メーカーの帝人ナカシマメディカル（岡山市東区上道北方）は、人工関節や手術用具を医療機関に配送する物流拠点を東京に新設した。取引先の8割近くを占める関東地区への納

東京に初の物流拠点

東京都品川区の6階建て倉庫の一画約260平方メートルを賃借。同社が製造するひざ、股、肩などの人工関節をはじめ、骨折の修復に用いる接合材、手術に使う器具など約90種類を保管する。運営は医療機器専門の物流会社・鴻池メディカル（東京）に委託し、9月下旬に稼働した。

帝人ナカシマメディカルによると、人工関節の手術では通常、骨や関節などのパーツ4、5点を使う。これまでは関東地区の病院に届けるには最短でも注文の翌日になっていた。

パーツは患者の体形によりサイズが異なるため、各パーツとも複数サイズを送る。手術用具を含めると1人分で100点ほどに上る

人工関節など納期短縮

こともあり、その大半は未使用で返却される。新拠点の整備で返却までの最短日数は従来の5日から3日に縮まった。同社のパーツの出荷

新拠点では関西や九州にも配送。岡山から送るよりも遠くなるが、輸送手段をトラックから飛行機に切り替えて対応する。中四国の一部は従来通り本社から配送する。

国内の人工関節は欧米製が多く、帝人ナカシマメディカルは市場シェアは3%程度。同社は「物流コストの削減と在庫回転率の向上につなげる。緊急手術にも対応できる点をアピールし、早期に出荷件数を2割増やしたい」としている。



帝人ナカシマメディカルが東京に設けた物流拠点。人工関節や手術用具を保管している

同社は、船舶用プロペラ最大手・ナカシマプロペラ（岡山市）から2008年に独立したナカシマメディカルを母体に今年4月、化学・合成繊維大手の帝人（大阪市）の出資を受けて発足。資本金1億円。従業員約180人。ナカシマメディカル時代の14年11月期の売上高は29億1千万円。

緊急手術対応も可能に